

地域共生学科食物栄養コース・食物科栄養士コース	3ポリ在学生評価				3 ポリ外部評価（事業所）				卒業生による短大での学びの評価			
	実施日	12月17日			実施日	1月31日			実施日	1月30日		
	学生の学年・人数	2年2名			事業所名	日清医療食品株式会社 福岡支店			卒業年度、就職先	令和元(2019)年度 食物科栄養士コース卒 御堂青い実幼稚園		
	DP	DPの理解度	5	Ⅱ 確かな専門的知識や技能の①～⑥がそれぞれの教科を示しているかわかりにくく、特に①社会生活と健康、④栄養と健康がイメージしにくい。	DP	4	当社ではⅠではレベル3、Ⅱ～Ⅳではレベル2を修得していれば問題ないと考えます。複数の卒業生が入社していただいておりますが、皆個性を大事にし、新しい厳しい環境に順応していると思います。 <th>役に立った学修</th> <td colspan="3">・包丁技術を中心とした基本的な調理技術 ・大量調理に関する学修</td>	役に立った学修	・包丁技術を中心とした基本的な調理技術 ・大量調理に関する学修			
		到達目標としての適切さ	5					不足していると感じた知識・技能	・給食室でのトラブルが生じた際の解決の仕方（発注ミスや異物混入などについて） ・アレルギーの対応について			
	CP	CPの理解度	5	・あまり意識したことはない。 ・使用されている語句（セメスター、クォーター、ケースメソッドなど）がわかりにくい。 ・科目によってセメスター、クォーターがどのように決められているのか理由がわかりにくい。 ・アクティブラーニングを取り入れている先生と取り入れていない先生がいるが、取り入れている授業の方がいい。 ・カリキュラムマトリックスやカリキュラムフローチャートを見た記憶がない。	CP	5	適当だと思います。短期大学なので時間も少ないとは思いますが、学外実習（病院・福祉施設）の回数がもう少し多く、時期的にももう少し早くなると学生の就職に対する意識も少し変わるのではないかと考えます。 <th>学外活動への参加</th> <td colspan="3">積極的に参加しなかった</td>	学外活動への参加	積極的に参加しなかった			
		評価方法の適切さ	5					役に立った学外活動	特になし			
カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性		5	学習習慣の必要性和形成					ある程度必要で、ある程度身についた。 ・レポート作成等を含む各種課題 ・試験				
AP	入学前の意識	5	・入学前（入試など）によく目にした。 ・このままでよいと思う。	AP	5	適当だと考えます。 <th>最も役に立ったこと</th> <td colspan="3">・基礎栄養、給食実習 ・献立作成、大量調理、衛生管理</td>	最も役に立ったこと	・基礎栄養、給食実習 ・献立作成、大量調理、衛生管理				
	入学前の目標としての適切さ	5					教育内容に対する希望	・農作物に触れる機会（乳幼児施設などで栽培保育を実施する機会があるため） ・食中毒などの衛生管理 ・管理栄養士国家試験対策と実際の勉強の仕方（学ぶ順番など）				
所感	・ディプロマポリシーについては、Ⅱのベンチマークが分かりにくいのではないかという意見がコース教員からも出ていたが、実際に学生の間でも勘違いが見受けられた。 ・カリキュラムポリシーについては、学生が目にする機会が少なく、使用されている言葉も難しいため、十分に理解されていない様子であった。学生の主体的な学びの姿勢を養うためにも、カリキュラムマトリックスやカリキュラムフローチャートを含めて伝える必要がある。 ・アドミッションポリシーについては現状の維持で特に問題はないように思われる。			所感	カリキュラムポリシーに関して、学外実習の時期や回数について貴重なご意見を頂いた。現在のカリキュラム上では難しいが、カリキュラム変更も含めて検討したい。			所感	実務経験を経て管理栄養士国家試験に合格した卒業生である。現在は乳幼児施設に勤務しており、勤務先で従事している給食業務や栽培保育などに関する要望が見られた。乳幼児施設には毎年複数の学生が就職しているため、授業や各種ボランティア活動などを通して、就職先で活用できる知識を修得できる環境を整えるよう心掛けたい。			

地域共生学科製菓コース・食物科製菓コース	実施日	2月6日			実施日	2月23日			実施日	1月20日		
	学生の学年・人数	2年3名			事業所名	(株)レゼルイリゼ			卒業年度、就職先	令和5(2023))年度卒 ヒルトン福岡シーホーク		
	DP	DPの理解度	5	日常的に意識することはないが、資料で見ると理解できる内容がある。	DP	4	・自分が知っている方にしか挨拶をしない生徒もいますので、挨拶の育成をもっと高めた方がよいと思いました。 ・失敗したときなど心では思っていない、声を出さないという場面もありますので、もっと声を出すようにでき。らと思います。 <th>役に立った学修</th> <td colspan="3">テーブルマナー（ビジネスマナー/ホスピタリティ論）、製菓理論</td>	役に立った学修	テーブルマナー（ビジネスマナー/ホスピタリティ論）、製菓理論			
		到達目標としての適切さ	5					不足していると感じた知識・技能	アシットデセル(デザート)の皿盛)			
	CP	CPの理解度	5	・スクールバス利用者のことを考えると、時間割(開始が3コマ)を工夫して欲しい。 ・国家試験対策は8Qだけでなく、7Qから開始してはどうか。 ・総合演習Ⅱ(マジバン)の活動は余裕が欲しい。 ・ボランティア活動が多く、良い体験となった。 ・実習内容に対する要望(就職先、インターンシップ先で必要なものを取り入れる)	CP	5	現場の方を呼び、どんなことを考えられているかなどの声を聞く講義もありますので、大変良いかと思います。 <th>学外活動への参加</th> <td colspan="3">積極的に参加した。</td>	学外活動への参加	積極的に参加した。			
		評価方法の適切さ	5					役に立った学外活動	・長崎県洋菓子コンクールのマジバン技術コンテスト ・マジバン技術、ホールケーキの上にマジバン細工を乗せて飾った。			
		カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	5					学習習慣の必要性和形成	とても必要で、大変身についた。資格を取るという目標を設定してそれに向けて学んだ。(製菓衛生師、サービス接遇検定2級、医療事務)			
	AP	入学前の意識	5	・入試前に熟読した(分かりやすい表現だった)	AP	4	留学生の方はもう少し日本語が理解できていればより良く授業も進むと思います。 <th>最も役に立ったこと</th> <td colspan="3">・製菓実習、会社でお菓子を作る時、短大で作ったことがあるものだと一度作ったことがあるので、失敗をしにくかったり、応用がきく。</td>	最も役に立ったこと	・製菓実習、会社でお菓子を作る時、短大で作ったことがあるものだと一度作ったことがあるので、失敗をしにくかったり、応用がきく。			
		入学前の目標としての適切さ	5					教育内容に対する希望	・チョコ細工、あめ細工(全体で)、ソース、グラサージュを使ったケーキ、語学(英語とか)			
	所感	・今回は特待生3人に協力してもらった。内2名は学生会メンバーでもあり、他学科・他コースと比較してもらおうと思ったが、製菓コースに満足していると特にコメントは寄せられなかった。 ・APは入試の時に必要に迫られ熟読したとのことだが、DP,CPが必要となる場がなく、教室内の刑事にも目を向けていないことが分かった。教育サイドから積極的にポリシーについて話をする場が必要だと思う。 ・教育内容については概ね理解を示してくれた。			所感	実際の現場における心構えや対応、また留学生に対して指導者の目線から貴重なご意見をいただいた。今後は製法や技術指導だけではなく、現場で必要とされる社会人として挨拶や礼節をわかまえる事ができる人材育成を目標とした指導を検討し実施したい。			所感	・在学中も真面目で志しが高い学生であった。現在外資系のホテルに勤務していることもあり、語学のスキル、盛り付けなど子の1年で求められたことを要望に挙げている。 ・製菓技術については、ホテル就業の学生に対して、別途指導が必要なことが窺えた。		

地域共生学科国際コミュニケーションコース・	実施日	1月20日			実施日	3月17日			実施日	3月6日		
	学生の学年・人数	2年生3名			事業所名	(株)西沢本店			卒業年度、就職先	令和5(2023)年度卒 (株)西沢本店		
	DP	DPの理解度	5	・内容は適当で、しっかり読む子理解できると思う。 ・文章が少し長いので、教室などに掲示されてもあまり読まないと思う。動画やYouTubeのショートなど、学生への発信方法を検討していただきたい。 ・ポリシーの内容をもって暗唱大会など、学生たちが内容を把握できる企画をしても良いと思う。	DP	5	眞浦のこの1年の行動や対応力、適応力を見て、貴大学の卒業認定。学位授与の方針はとても学生を良い方向に導いていると考えます。本人も2年間の学びが社会人として基礎やキャリア形成に大きく影響していると認識しているようです。	役に立った学修	ビジネスマナーなどのキャリア系の科目が今の仕事には役立っている。			
		到達目標としての適切さ	5	不足していると感じた知識・技能				特になし				
	CP	CPの理解度	4	・日常生活で接しない用語などがあるため、少し内容を把握しにくい。 ・筆記試験がない科目の評価に関しては、学生たちが採点基準をより分かりやすく把握できる掲示方法を検討していただきたい。 ・クラス別にクラス分けを実施する一部科目において、同じ科目であるにもかかわらず、クラスによって学ぶ内容が異なり、評価にも影響するため、不公平を感じる場合がある。	CP	5	既に素晴らしいカリキュラムがポリシーのもと組み込まれていると思います。1つ挙げるとすれば、接遇者を志す学生が多いとのことでしたので、心理学のようなカリキュラムがあっても良いのかもしれない。	学外活動への参加	積極的に参加した。			
		評価方法の適切さ	5					役に立った学外活動	・ギャップタームでの国内有給インターンシップ、Awesom Sasebo活動、留学生とのHTB研修 ・インターンシップ（@湯布院、亀の井別荘）を経験したことで、接客の楽しさや様々なスキルを身につけることができた。 ・Awesome Saseboでも、多様な人達とのコミュニケーションや企画力など身につけることができた。			
		カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	5					学習習慣の必要性和形成	とても必要で、大変身についた。授業には真面目に参加し、積極的に様々な活動に参加した。			
AP	入学前の意識	4	・現在のAPの中で、2番目の項目に対して、短大入学前までは外国語検定取得に興味関心がなかったが、短期大学入学後に頑張ろうと思う人に対してはあまり適当でない気がする。 ・長崎短期大学で学びたいと思い志願したことは間違いないが、入学の目標としてAP自体を意識したことはない。	AP	5	今後も弊社眞浦のような素晴らしい人材をぜひとも育てていただきたく、貴大学のAPに大いに賛同いたします。	最も役に立ったこと	有給インターンシップの学外活動。毎日、お客様と接する上で、旅館で学んだ所作やコミュニケーションスキルなどが大変役に立っている。				
	入学前の目標としての適切さ	3					教育内容に対する希望	特にありません。今のままで大丈夫です。				
所感	・3つのポリシー内容に対し、学生たちは掲示された内容をしっかりと把握して「卒業認定・学位授与」及び「教育課程編成・実施」はそれぞれの方針として適当であるという意見が多かった。ただ、使用する用語や評価基準などについては学生たちがより理解しやすい内容を掲示する必要性を感じた。更に各教室及びホームページなどに各ポリシーの内容は掲示されているものの、学生たちがより接しやすいツール(動画など)を活用することで、認知度の向上を図りたい。 ・「入学者受け入れ」の方針としては意外と適当という意見が少なかったため次年度以降に入学する学生たちの意見を引き続き参考にしながら、内容を検討していきたい。引き続き3つのポリシーのことを意識しながら、質の良い教育が行えるように取り組みたい。			所感	・本学のポリシーすべてにおいて、適当枠との評価を頂いた。仕事をする上で短大での学びが基礎となっていることが理解できた。接遇者を目指すための心理学の授業の必要性を言われている。既に提供しているが、このコメントに関して担当教員に相談してみたい。コースとしては引き続き、この3ポリシーに従い社会で認められる人材を輩出できるように努力したい。			所感	企画部専務の西澤様も同席して、話をしました。入社当初より即戦力で、お客様のリピーター（指名してきてくれる）も多く、非常に大人対応ができる優秀な卒業生であるとのこと。加えて、パソコンスキルにも長けており、様々な業務にも対応してくれている。店舗のポップの作成なども任せており、会社の重要な仕事を担ってくれている。他にも長崎短期大学の卒業生が働いてくれており、ぜひ、引き続き眞浦さんのような学生を紹介して欲しいと言われた。 卒業生が地元で、中堅人材として活躍してくれていることにコース教員として誇りに思います。			

地域共生学科介護福祉コース・保育学科介護福祉専攻	実施日	1月29日			実施日	1月11日			実施日	1月9日		
	学生の学年・人数	2年3名			事業所名	ナイスケア白岳 施設長			卒業年度、就職先	平成26(2015)年度卒業 老健コスモス		
	DP	DPの理解度	5	・DPは教室に掲示してあるため存在は知っていた。頭にはあまり入っていなかった。説明を聞いた記憶はある。 ・DPは到達目標として妥当であり、社会に出てからも役に立ちそうである。特にDP2は専門的な科目に対して体系的な理解ができたと考える。 ・茶道の実技は授業時間外の練習が多く、大変だった。	DP	5	・社会人として真面目でコミュニケーション能力はある。短大で学んだことと現場での対応は違うので、現在応用について学ぼうという姿勢は非常に好感が持てる。	役に立った学修	・コミュニケーション技術が役に立っている。目線、声の高さ、トーン等が役に立った。他の業務は先輩に指導を受けながらおこなうため、単独でできる事はすくないため、この内容が役に立ったと感じる。			
		到達目標としての適切さ	4					不足していると感じた知識・技能	・専門用語。特に他職種（看護師）の専門用語にわからない言葉があった。（しかし、学ぶ内容が違うため仕方が無いかとも思う。就職してからの勉強が必要。） また、時々であるが介護福祉職の言葉もわからない事があった。ADL支援においては、利用者は個性が多々あるため、これは経験を積むしかないかと思う。			
	CP	CPの理解度	4	・とても詳しく書いてある印象。教育方針について説明されたことは覚えており認識していた。 ・カリキュラムポリシーは内容が細かく文言が難しい。2年間の学びをまとめるとこういう形になるということは理解できる。	CP	4	・現場では記録物がパソコンやタブレットに移行しているため、できるだけその知識を学生のうちにつけてほしい。	学外活動への参加	・積極的に参加した。			
		評価方法の適切さ	4					役に立った学外活動	・夏祭り、文化祭にボランティアとして参加した。 ・職員の家族に対するコミュニケーションについて学べた。また利用者さん、家族、地域とのかかわり方を学べた。			
		カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	4					学習習慣の必要性和形成	・ある程度必要である程度身についた。実習においては、教科書で分からない事を調べるなどの、調べ学習が身についた。また、クラスメイトと一緒に勉強することがとても有意義であった。			
	AP	入学前の意識	3	・介護の専門以外のことも書いてあるので良いと思う。 ・入学前に知っていた（募集要項で読んでいた）。	AP	5	・頑張り屋さんで学ぶ姿勢がある。初めは緊張していたが、最近は肩の力も抜けてよい感じで仕事ができている。	最も役に立ったこと	・介護実習、実技、その他、記録の取り方が就職して役に立っている。			
		入学前の目標としての適切さ	5					教育内容に対する希望	認知症の人との関わり方、声のかけ方、接し方についてもう少し深掘すると良いかもしれない。具体的には、認知症が重度の方（立位困難、弄便、意思疎通不可、その他）とのかかわり方があったと良いかもしれない。現場では、先輩の対応をみて学んでいった。			
	所感	・ディプロマポリシーについては年度開始時に2年間で最低2回は説明をしており、教室にも掲示している。学生は意識はしていても実際に文言に触れる機会が少ないように感じた。各授業でどういう力を身につけるのかについてDPの文言をもっと活用しても良いのではないかと感じた。 ・カリキュラムポリシーは細部まで作り込んでいるが、逆に学生としては専門用語が多く難解であるという感じを受けた。 ・アドミッションポリシーについては学生も入学前に募集要項でチェックしており、素直に機能しているものと感じた。			所感	積極的に仕事に取り組む姿があり、職場からの評判も良い。学生時代から真面目なため、考えすぎるところはあったが、現在はオン・オフの切り替えもできていて良い感じで仕事に取り組んでいる様子である。			所感	・卒業後、約10年が経過している卒業生にインタビューを行った。卒業後、一つの職場で勤務を継続している。介護の仕事を、楽しいと言い勤務を続けている。就職前から、介護実習、ボランティアを通して現在の施設に触れながら自身の就職先を決めたこともその要因ではないかと、インタビューを通して感じた。また、短大で学んだ基礎があるからこそスムーズに先輩や多職種とコミュニケーションを図りながら成長しているのではないかと感じた。 ・卒業後に、介護の仕事を楽しみながら成長することができている、一つのモデルケースではないかと思う。		

保育学科・保育学科保育専攻	実施日	2月12日～2月14日				実施日	2月20日				実施日	2月10日			
	学生の学年・人数	1年1名・2年2名				事業所名	相浦幼稚園				卒業年度、就職先	令和4(2022)年度卒 相浦幼稚園			
	DP	DPの理解度	5	・目標として適当だと思うが、すべての人をレベル4にするのは難しいと思う。得意な分野であればレベル4に到達に到達しうと思う。目標が低いとは思わない。 ・レベル4の文章が長く理解しづらさがある。もう少し文章が短くまとめられると理解しやすいのではないかと。 ・レベル1のような文章のように2,3行ぐらいただと学生には理解しやすい。レベル別の細かい違いについては具体的な行動の例に結びつけるまでが難しいと感じる。レベル1から2の違いは分かりやすいが、レベル3から4の違いは学生にとって読んでわかりにくいのではないかと。先輩保育士さんなどから説明や例えを示してもらえば理解しやすい。		DP	4	最終的には個人の資質による部分も多いかと思いますが、まずは基本的な部分はできているように感じます。就職も大切ですが、やはりその後の本人の成長が一番大切な部分だと思いますので、挨拶や返事、先輩の話聞く際のメモの取り方など当たり前のことを当たり前にできる方が成長も早いですし、様々な指導をしなくなるかと思しますので、専門的な知識に加え3のコミュニケーション能力や5の主体的に学ぶ力を持った学生が来てくれると園としてもしっかり育てないという責任感が生まれます。	役に立った学修	・初年度からクラス担任を経験したが、短大でピアノの授業を通して習得していた曲が何曲もあったため、実践できた。また手遊びや外遊びでの運動遊びも役立った。					
		到達目標としての適切さ	5	不足していると感じた知識・技能	・支援が必要な子どもに対する対応。授業で学んではいたが、想像していたより何倍も大変だった。同じ病名でも子どもひとり一人の症状が違った。先輩たちの声掛けやかかわり方を学んで実践したり、自分で調べて教材を考えたりした。教材研究をしながら、実践し試行錯誤を繰り返しながら対応を学んだ。また外国籍の自閉症児の対応にも苦労したが、子どもたちにも助けられたところもあった。現場に出てからも勉強し、学び続けている。										
	CP	CPの理解度	4	・文章のみであれば難しいが、説明されたら理解はできる。 テストの割り振りで試験が多い、少ないというのが気になる。クウォーターによって講義と演習のバランスが取れているとよいと思う。講義が多いクウォーターは集中力を持続させるのがきついつきがある。 ・今年度セメスターとクォーター科目の導入で戸惑いがあった。1年生の実習のことや何故今年度カリキュラムが大幅に変更になったのか質問があった。急にカリキュラムが変更になった時など変更になった目的など説明してほしい。 ・教育課程の方針にある保育の対象に関するという表現の中で保育の対象という文言がかりかりづらい。保育ということは「子ども」だと思うが「ほかに対象がある」のであれば具体的に記入してほしい。		CP	4	2年間という限られた期間の中でのカリキュラム編成はご苦労も多々あるかと存じます。学生も同じで、限られた期間での学びの中ではご苦労も多いでしょうが、座学・現場のうちもっと様々な現場を知る時間があってもいいかもしれません。今年度、1年生の実習を初めて実施される中で課題もあったかと思いますが、そういう養成校の新しい取り組みには園も一緒に協力して保育者育成に努めてまいりたいと思います。	学外活動への参加	・コロナ禍で活動ができなかった					
		評価方法の適切さ	5						役に立った学外活動	・海きららあまもばでの活動。人前に立つ、保護者の前に立つ経験ができた。 ・あつまれ元気な子どもたちでは、体を動かす遊びを通して、子どもたちの様子や保護者との関わりを知る機会となった。 ・人前に立つことは恥ずかしく、緊張するが、この経験を通して自信を持つことができた。 ・保護者と関わる機会があり、その中で様々な世代の方とコミュニケーションを取る経験が現在の保護者支援や地域の方との関わりに活かされている。 ・製作物を考える力や導入、展開の仕方、など実践実践の内容を見通しを持って考えられるようになった。					
カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性		5	学習習慣の必要性と形成						・とても必要で、大変身についた。特にピアノの授業。授業ではある程度できていても、実習を通して足りないところに気付き、練習し学び続けたいいけないと感じるようになった。						
AP	入学前の意識	4	・高校生から理解しやすい文章となっている。3ポリの中で一番わかりやすい。高校の先生から入試対策として、アドミッションポリシーをみて、意識して高校生活を振り返るように指導されたため。 ・受験時思っていたことは項目の1番目に「子どもが好きで、愛情を持って接することが出来る人」というきていることで、本学へ入学したいという気持ちになれた。 ・1番目の項目によって本学受験する意味として「なら大丈夫」と思うことができた。 ・保育学科の学生として求められるものだと思う。		AP	5	方針として5つ記されているものについてはこれ以上ないものだと思います。 方針と実際の入学者が合致するかどうかは時代背景を鑑みると必ずしもそうではありませんので、方針はそのままでより多くの学生の皆さんに選ばれる養成校になれるよう、市内の保育施設もその一翼を担う必要があるかと思っています。方針通りの学生の皆さんが集まれば最高ですね。	最も役に立ったこと	・幼児期の終わりまでに育て欲しい10の姿、保育内容の5領域を基礎として知っていることが大事。10の姿や5領域を知っていると基礎的な保育のこと、子どもを見る視点、育ちの見通しなどを持て、普段の保育実践や子育て支援に役立っている。 ・友達関係に恵まれた。友達がいたから乗り越えた。友人関係は今でもつながっている。同業だからお互いに情報交換をして、支え合っている。						
	入学前の目標としての適切さ	5						教育内容に対する希望	・外国籍の子どもへの対応。保育で使える英語は実用的な用語だけではなく、保育で使う専門的な用語も多く知れたら良い。 ・嘔吐した時の対応など日常であるような医療的な対応について、具体的な実践、演習的なものがあればいい。						
所感	・今回選出した学生は成績優秀者であり概ね理解できると回答してくれているが、他の学生の中には難しさを感じると思われる。オリエンテーション時に詳しく説明する時間を設ける必要性を感じた。 ・入学時に3ポリの説明をしているが、CP、DPについてはあまり覚えていない様であった。学期ごとに学習目標の確認のため、記載する機会があってもよいと思った。 ・カリキュラムポリシーに関しては、学生だけでは理解することが難しく、パンフレットや学生便覧を用いながら説明を行い、理解ができたようである。 ・教員が文章を考えるときに大切なことは学生が理解しやすいかを前提として考えるべきであり、かみ砕くような文章が必要なのだと改めて感じた。				所感	保育者を養成校と共に育てるという意識を強く持たれている様子が窺えた。そのためにはしっかりと保育現場に定着するように2年間の学びを基礎として、主体的に学び続ける力を身につける学修環境を学科の授業展開の中で積極的に取り組んでいく必要がある。具体的にはグループワークなど学生が自分の意見や考えを述べる機会を増やす、保育実践などを具体的に経験できる機会を増やすなどの工夫が必要になってくると考えられる。				所感	・在学時から学びに対して意欲的な学生であったが、現場に出てからもその意識、行動は変わらず、より良い方向に向かおうとする気持ちを持ち続け、自分自身の成長に向かって努力している姿勢が窺えた。卒業してから2年目ということもあるが、現状に満足せず、常に高みを目指し、自分を成長させるため行動を継続していることが確認できた。				
専攻科保育専攻	実施日	2月22日				実施日	2月7日				実施日	2月7日			
	学生の学年・人数	2年2名				事業所名	柚木保育所				卒業年度、就職先	平成26(2014)年度卒 柚木保育所			
	DP	DPの理解度	4	(1)については、今の自身の状況を客観的に理解することは、項目によって難しく感じるところもある。 (2)については、特にⅡ－3の課題解決できたか？において自身の力にまだ十分な自信がなく、レベル4に達することができていないと判断する項目であった。		DP	4	全体的には素晴らしい内容と思いますが、「知識・専門技術理解の①において外国語コミュニケーションと情報機器の操作のスキルがひとまとまりに表記してあるので、そこに違和感を感じました。	役に立った学修	・子どもだけではなく、保護者支援に関わること、地域との連携。 ・園内研修などでのプレゼンテーション力					
		到達目標としての適切さ	5						不足していると感じた知識・技能	・外国語によるコミュニケーション力					
	CP	CPの理解度	5	・本科に比べて、どの先生も評価が甘いように感じる。自分の力をしっかり見て評価していただいているのか、逆に不安もある。 ・少人数クラスなので、一人ひとりへの対応がきめ細やかであると思う。 ・学科生の面談のために、専攻科の授業を中断された先生がいた。		CP	4	卒業生を見る限り、カリキュラムポリシーに値するのではないかと思います。1のコメントの続きになりますが、語学とPC操作はそれぞれ独立しての表記がわかりやすいと思います。	学外活動への参加	・積極的に参加した。					
		評価方法の適切さ	4						役に立った学外活動	・地域の防犯・防火見回り活動。地域の方々と協力することで、地域の一員として役割や地域貢献を実感できた。					
		カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	5						学習習慣の必要性と形成	・とても重要で、大変身についた。レポートの作成や課題をするための時間をつくり出すこと。					
	AP	入学前の意識	5	・入学試験の時にしっかり確認していた。		AP	5	求める学生像1～4も大切ですが、その中に謙虚さや柔軟性という言葉も加えてほしいです。	最も役に立ったこと	・専攻科の先生方との出会い。何かあったときは相談に乗っていただいている。 ・学位取得のための論文。子ども安全管理士の資格取得のためにアンケート調査を活用した論文の提出に役立ち、無事に資格取得ができた。					
		入学前の目標としての適切さ	5						教育内容に対する希望	・インターンシップ制は大変素晴らしい制度で、午前中に現場の空気を感じ、午後に授業に反映させることができた。 ・授業の中ではインターンシップ先とは違った、専攻科の学生という立場だからこそ受け入れていただける場所に訪問させていただいた。その経験は社会に出た後にもつながる大変有意義なものになりました。 ・科目によっては机上だけで終わるものもありますが、1年の中で1回でもその科目に実際に関係している場所や人を訪問するプログラムがいいのではないかと思います。					
	所感	・DPに関しては、保育者のキャリア形成全体をこの到達度に入れていることから、学生にとっては未達成感を覚える項目もあると感じられる。今後精査していきたい。 ・CPに関しては、少人数クラスの利点である細やかな指導が挙げられているが、一方で専攻科生への特別感が過大評価につながっていないか、検討の余地が残った。 ・APに関しては、ガイダンス時の説明と入学試験時の面談の中で、十分に方針理念が伝わっていると感じている。				所感	DPならびにCPの学国語とPC操作の項目は別々に表記されていることを望まれている。また人間性に関わる言葉の表現を加えることが望まれている。				所感	保育学科の2年間では学びきれない高度な専門知識や支援力を得ることができており、終了後に現場で活躍されている。さらにフィールドワークを増やし、地域や保育現場とのつながりを確認す教授方法が望まれる。			